

旭川放水路事業のあゆみ



岡山の三大河川の一つ旭川は中国山地の朝鍋鷲ヶ山^{あさなべわしがせん}を源流とし、岡山県の中央部を南へ流れる南北に細長い流域を持つ河川で、中流で吉備高原を、下流では岡山平野を形成し、児島湾に注いでいます。旭川は、流域の各地に豊かな恵みをもたらしてきましたが、一方で、人々は度重なる洪水の被害を受け、その洪水対策に追われてきました。この対策として代表的なものが、江戸時代、1680年ごろに、旭川の放水路として築かれた百間川です。百間川は、岡山城下を守るために築造され、今日でも岡山市街地を洪水から守る重要な役割を果たしています。昭和49年以降、旭川放水路事業（百間川）として、堤防整備、河道掘削、橋梁整備、樋門・排水機場整備、河口水門の増築等の整備を行ってきました。そのため平成30年7月豪雨時には、被害を最小限に留めることができました。このたび、分流部の改築が完了し、旭川放水路事業は完成しました。今後は、施設の維持管理を適切に行い、江戸時代より続く、百間川の機能を未来に受け継いでいきます。